

平成28年4月23日(土)

老球の細道229

## コーチの酉是酩酊味

会津バスケットボール協会 室井 富仁

コーチの仕事を考えてときに思い出すのは2人の名将の言葉である。2人とも故人であるが、選手として、コーチとして殿堂入りを果たして史上最高のコーチである。バスケットボール界の名将ジョン・ウッデン、もう一人はアメリカンフットボール界の名将アロンゾ・スタックである。スタックはバスケットボール選手としても殿堂入りを果たしている。「選手が人間として持っている可能性を極限まで引き出すことである。バスケットボールはそれを達成するための〈一介のゲーム〉にすぎない」(ジョン・ウッデン)

「自分のコーチングの仕事の成果は20年以上たってみないとわからない。選手たちが年を重ねて人間的に成長を遂げたことが明らかになったときこそ、そのコーチはグラウンド内でも外でも〈真の勝者・コーチ〉として評価が与えられる」(アロンゾ・スタック)

これらの言葉から思い出される教え子がいる。原町高校時代の選手であり、私のクラスの生徒でもあったW君である。彼は現在テレビユー福島放送のベテランカメラマン。ある時突然電話をくれた。彼が2年間にわたって企画、撮影した『TUFルポルタージュ・それでも希望の種をまく、福島農家2年目の試練』という番組を見てくれという連絡だった。

この番組は福島原子力発電所事故で米や野菜の生産や出荷がままならない状態に陥った二本松市東和地区のある農家を2年間に渡って密着取材したすばらしいドキュメンタリー番組であった。セシウムとの格闘から見事に自家産出米を生き返らせる農家の地味ながら粘り強い戦いを描いている。随所に「ピンチはチャンス」、「挑戦」などのキーワードが登場し、いかにもW君らしい構成の仕方で感動した。

W君は30数年前に原町高校バスケットボール部員であった。普通の部員とは違い中学校時代に卓球部に所属し高校からデビューした。体型は細く身長は180センチ。なぜバスケットボールに入ってきたか。それは、バスケットボール部が最も厳しい練習をしていたからだと言う。厳しい部活動に所属し心身を鍛え、将来は日本全国に名を知らしめるカメラマンになるためだと彼は語っていた。

3年間私のクラスに所属し、学業成績は抜群で常に学年トップクラスをキープしていた。学校やクラスのイベントでは企画などで異才を発揮し、3年生の学校文化祭の時は彼のカメラ技術でクラス映画を制作した。その頃からカメラマンの才能は開花していた。

バスケットは高校から始めたので、苦しみ抜きながら見事に3年間やり通した。最初はスタミナ、筋力はまるでなかったが、努力の甲斐あって3年になってからはリングをわしずかみにするようにまでなり、地区大会優勝、県大会ベスト4チームの一員として活躍した。穏やかな性格ながら、自分の意見を堂々と言える男気のある生徒だった。

3年生時に引退してからは放送部にも所属し放送コンクールなどでも活躍した。また、カメラの腕を磨くためにバスケットボールの色々な写真を撮り続け、私の現役選手時代の試合時の写真で全国コンクールで賞を獲得した。その写真は私にとって宝物である。

高校時代エピソードや伝説を残している教え子たちは社会に出てからも偉大な仕事をしている。教え子たちがその後どうしているのか、コーチとしての真価が問われることでもあるが、教え子たちの随所に主となる活躍を知ることはコーチの醍醐味でもある。